

稜友

August 2025, No.365



大深沢

新潟稜友会

Homepage <http://niigataryoyu.wixsite.com/niigata-ryoyu>

巻頭言

しばらく山から遠ざかっていたので、巻頭言というよりは近況報告です。昨年的大型連休前に話を頂いた耐震診断耐震補強の仕事にほぼ一年を費やし、引き続き今年の春から新規物件を2つやり、先日ようやく解放された。この間の山行はほんの数件で、全く山から遠ざかってしまった。体力も急坂を転がり落ちるように低下してしまった。この間、健康で仕事(生活)をするためには、足腰が丈夫なことを痛切に感じた。あと10年位は元気で仕事をしたいと思うので、そのためにも足慣らしをと思っているが7月からの猛暑で、弱った身体で安易に出かけると、熱中症になりそうで躊躇してしまう。今後は益々のんびり登山となりそうだ。(大島)

会員の山行状況(2025 年 7 月) 新潟棲友会メーリングリストより

日程	山域(形態)	メンバー
2025/07/02-03	秋田駒ヶ岳～乳頭山	L.木嶋、他1名
2025/07/05	俎倉山琴沢(沢登り)	L 野口、曾我
2025/07/13	五頭山大荒川本流下部(沢登り)	L 須藤、阿部、曾我、野口
2025/07/19-21	葛根田川～大深沢 (沢登り)	須藤、他1名
2025/07/20-21	飯豊山	L 関川、海老名
2025/07/21-22	安達太良山石筵(沢登り)	L 野口、木嶋、曾我
2025/07/26	佐梨川灰ノ又沢(沢登り)	L 野口、阿部、曾我
2025/07/31	白毛門沢(沢登り)	L 海老名、中村

2025 年 例会・巻頭言・編集担当・例会日一覧

月	例会テーマ(担当)	巻頭言	編集担当	例会日
1 月	気象・山行の適否(須藤)	須藤	小川	1/15(水)
2 月	雪崩(三木)	野口	中村	2/19(水)
3 月	装備点検(橋本(寅))	橋本	野口	3/19(水)
4 月	山の食事(曾我)	肥后	三木	4/16(水)
5 月	クライミング技術(野口)	阿部	海老名	5/21(水)
6 月	ファーストエイド(関川)	池上	関川	6/18(水)
7 月	暑気払い(野口)	海老名	小川	7/16(水)
8 月	募集山行準備(海老名)	大島	中村	8/20(水)
9 月	ナビゲーション(中村)	小川	野口	9/17(水)
10 月	事故の事例研究(未定)	木嶋	三木	10/15(水)
11 月	総会に向けて	佐藤	海老名	11/19(水)
12 月	総会	鈴木	関川	12/(日) * 未定

なお、例会担当者は市民会館の駐車場を利用できます。

月報締切日は月末、発行日は翌月 15 日

2025 年 会山行予定

日程	山行形態	山域	担当
2 月 2 日	雪上訓練 (※ビーコン訓練含む)	未定	海老名、須藤
5 月 25 日	岩場トレーニング	杉滝岩	海老名
5 月～6 月	山スキー	富士山	曾我
8 月 31 日	沢登り・募集山行	白毛門沢	海老名、
9 月 6, 7 日	沢登り	室谷川	野口
未定	スラブハイク	未定	未定

日程	山域(形態)	メンバー
2025/07/13	五頭山大荒川本流下部(沢登り)	L 須藤、阿部、曾我、野口
2025/07/19-21	葛根田川～大深沢 (沢登り)	須藤、他1名
2025/07/20-21	飯豊山	L 関川、海老名
2025/07/21-22	安達太良山石筵(沢登り)	L 野口、木嶋、曾我
2025/07/31	白毛門沢(沢登り)	L 海老名、中村

五頭山 大荒川下部（沢登り）

2025 年 7 月 13 日 晴れ
メンバー:Ldr 須藤、阿部、曾我、野口(記)

今年は雪が多かった影響で高い山に突き上げる沢は、どこも面倒な雪渓が残っていそうだがしかし平地は暑い…。ならば五頭あたりの沢でジャブジャブ遊ぼう、ということで大荒川へ向かった。

大荒川の上流の沢(西小倉沢とか)を遡行する場合、下部をとばして堰堤を越えたあたりで入渓する人が多いが、今回は駐車場からすぐの魚止滝からその堰堤までをジャブジャブ遡行してみた。
行動時間が 8 時間となっているが、さくさく行けば 2 時間程度だと思われる(遊びすぎた)。



今回のルート



登山道から見える2mほどの滝



滝に向かってさっそく泳ぐ(左岸から歩いて越えられます)

水温はキンキンでもないが、やはり流水は冷たい。流水により体温が奪われる速度は、大気中よりも 25 倍も早いらしい。さらに水中で身体を動かすと体温低下が促進される。釜を2つほど泳ぐと歯の根が合わなくなった。



魚止めの滝 左から超える 念のためお助けロープを出す



2m くらいの滝 右から。2 回ほどドボンした後に越えてロープを出した



落ち口



右に曲がった先にある3m ほどの滝にとりつく

どれも微妙に悪いが登れなくもない、という面白い小滝が点在し面白い。

滝の右側に残置ハーケンとスリングがあり、そのスリングに足をかけて越える、が正解のようだが足が上がらない、、。諦めて左側を這いずり上がった。



左側ルート 足がない

面白いのだが、、やはり両岸が迫る谷地形なため日が差さない。うーっ寒い！



日が差す場所が恋しく、しばし休憩



温まったらまた泳ぐ 2m ほどの滝 右から



微妙な体勢からぬめった落ち口へ



CS 滝はドボンすると流れに巻かれそうで退散

左岸の草付きの傾斜を高巻き、懸垂せずに沢に復帰。

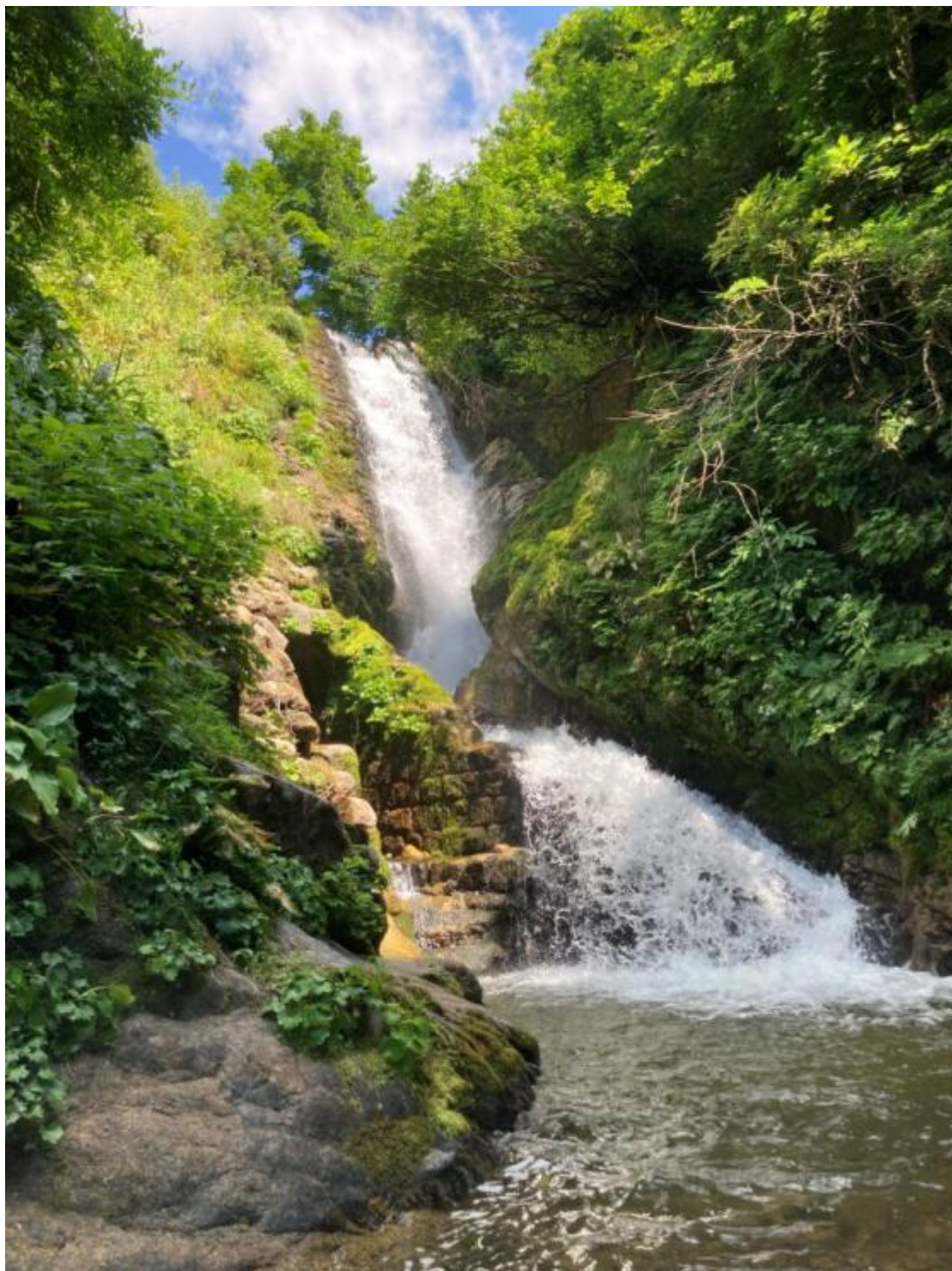


CS

滝を越えるとひらけてくる。あったけー



こいつも寒いのか逃げない



げ！なんだこのデカイ滝は？と思ったら、これが最終堰堤

最終堰堤は石積みの堰堤で、飛行石がどーとかのアニメにできそうな雰囲気がある。これは左から高巻く。すると見覚えのある草原に出た。踏み跡をたどると、この上流の沢を遡行する際に入渓点としていた河原に着いた。今回はここをゴール(脱渓点)とした。焚火をして凍えた体を温める。



暖をとり飲み物を飲んで復活

踏み跡をたどって登山道へ。脱渓点から 40 分ほどで戻ってこられた。帰りは近場のお風呂「出湯温泉 共同浴場¥250(シャンプー等なし)」へ。脱衣していると床を這うアレを発見。小さいヒルである。血は吸っていなかったなので登山口の駐車場で衣類に付いたのであろう。また、その晩から腕に痒みが！チャドクガである。昨年から何度もやられているので対策として雨具を着ており、さらにツバキ系

の葉っぱもできるだけ避けていたが袖口付近と首筋をやられた。五頭は藪に入るならチャドクガに刺されると思った方がよさそうだ。

装備:30m ロープ、フェルト靴 2 人、ラバー靴 2 人

カム(どっかで 2 個使用)、ハーケン(何度も使用)、ナッツ(どっかで使用)

葛根田川～大深沢継続(沢登り)

2025 年 7 月 19 日～21 日

メンバー:須藤正雄、三浦大介(ブナの会)

おやじ二人でなんで癒し系？

最果て陸奥は岩手県、気楽に行ける所じゃないし百名谷の一つでまだ行ったことない。目的がお盆山行の体力トレーニングなので良いでしょう。葛根田川は正直言って拍子抜け、見どころの「函」はうっかり通り過ぎてしまう程度でその先も見栄えのする溪相は無かった。大深沢に降ると気分は一転、岩魚君がこれでもかと出迎えてくれる。「ナイヤガラ」の滝手前からその先のナメの見事さは一見の価値がある。ただ全般に言えるのが最近の水害の影響で荒れている所が多く、長いゴーロ歩きを強いられる。登攀系とは違った体力を使うが歩きが続きトレーニングにはなったかな。

7月 19 日

前夜は盛岡の格安宿泊施設「ゆっこ盛岡」で前祝。早朝出発し 6 時前に歩き出す。



スタート地点は地熱発電所のゲート前。



林道～林道跡を 30 分で入溪。しばらくは広い河原が続く。この辺は釣り師の跡がいっぱい。盛夏はアブの名所ですがまだ出ていなくてホッとする。



景勝地「函」の入り口。数メートルの泳ぎがあるだけで問題なく行ける。



函の出口。通り過ぎてからしばらくして函だと気付いた。この程度なの？ 拍子抜けだ。



葛根田大滝。しょぼいな～ でもこれが一番大きな滝。左岸に巻き道あり。



大滝上から



北ノ又沢左俣に入ると小滝が出てくる。



源頭の雰囲気が出てくると時折ナメが。予定外のハイペースなので昼はそーめんタイム。チビ岩魚もゲット(必要なかった)。



何もないと思っていたら……ズルズルなので巻きます。



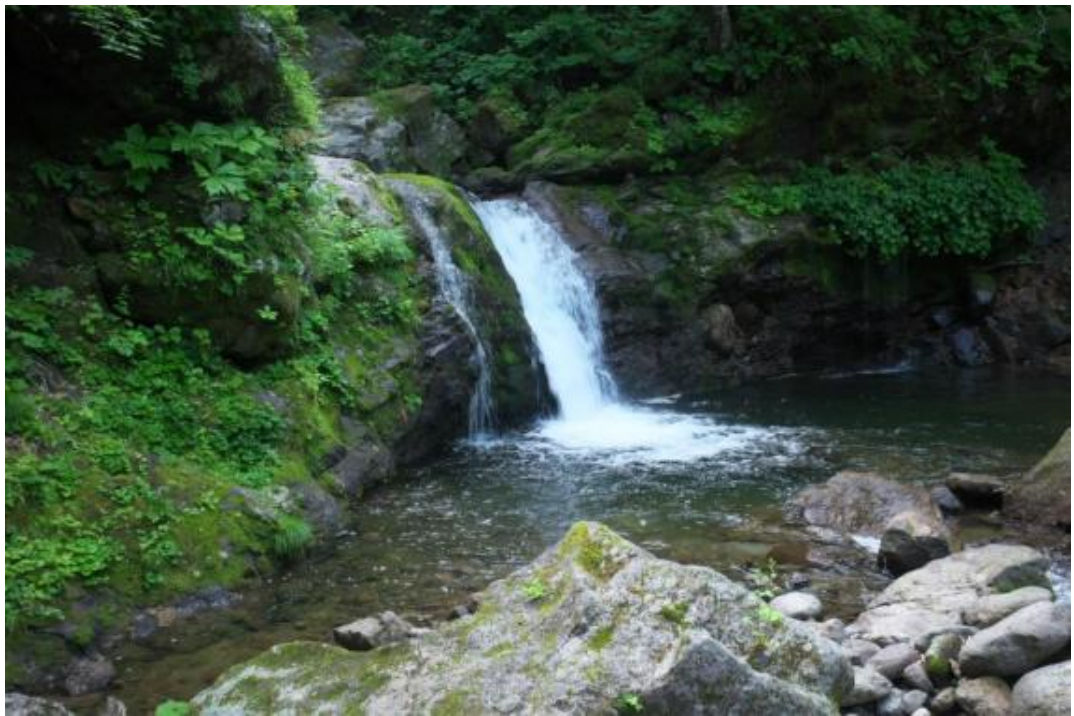
藪漕ぎなしで稜線に飛び出す。そのまま草原地帯から大深沢へ降るとすぐに水が出てくる。南面とは植生、溪相が変わり期待できそう。



下降しながら竿を指すと い・れ・ぐ・い だ。程々にしないと。



刺身の残りを塩焼きに。食べきれないので残りは明日のつまみにまわす。



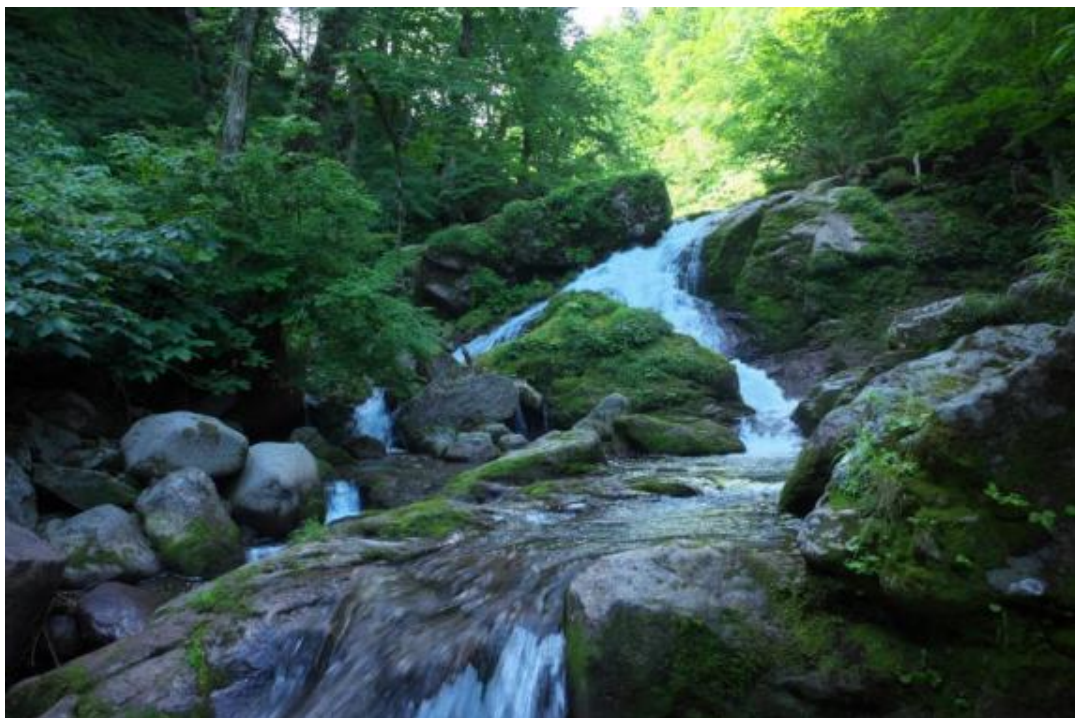
7月 20 日 大深沢本流まで唯一の滝らしい滝。ここは懸垂。



大深沢本流出合の原生林。実に気持ちの良い所だ。熊の気配が多いのを除いて。



熊の足跡、食い荒らした大フキ、糞がそこら中に。こんなに熊密度高い沢は初めて。



しばらく河原歩きをすると趣のある滝が現れる。



出合から1時間、景勝地「ナイヤガラ」の滝。沢幅目いっぱいに落ちる姿は圧巻。



ナイヤガラの下で。やたらヌメルので念のためロープを出して登る。



ナイヤガラの上は広々としたナメが広がる。



ナメが続きます。この雰囲気に入るだけでも来た甲斐があった。



北ノ又沢出合。右の東ノ又沢に入ります。



ちょっとしたゴルジュあり



今日中の稜線超えは熱中症の危険あり。2000m付近でお泊り。岩魚は程々にしておこう。



7月21日 珍しい岩。いかにも脆そう。この流域は土砂崩れが多いわけだ。



僅かの藪漕ぎで稜線へ抜ける。数年に一度の刈り払いの道はバッチリ今年払ったばかり。



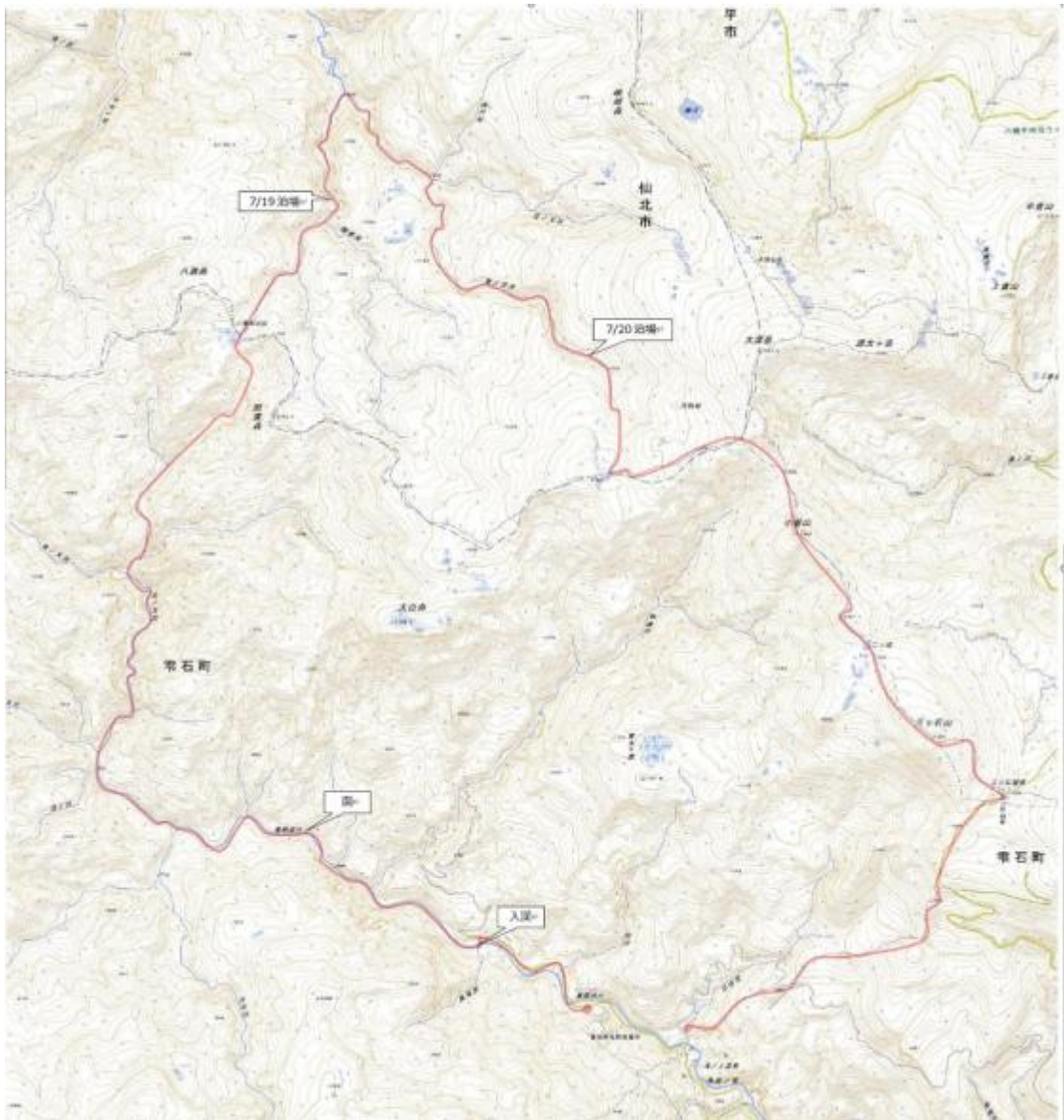
涼いうちに登山道を下山に変更。数年前、厳冬期に滑った岩手山が間近に聳える。



三石山荘。避難小屋ではあるが薪ストーブ、毛布などが完備していて快適そう。

登山道は草原、湿地帯、最後までブナの原生林が広がり気持ち良い所だ。下山すると入山時にはいなかったアブのお出迎え。そうそう登山口にある掛け流し温泉で汗を流し帰路へ。盛岡で昼食を食べていると突然のスコールのような雨に見舞われる。下山路を登山道に変更して良かったとさ。

<ルート略図>

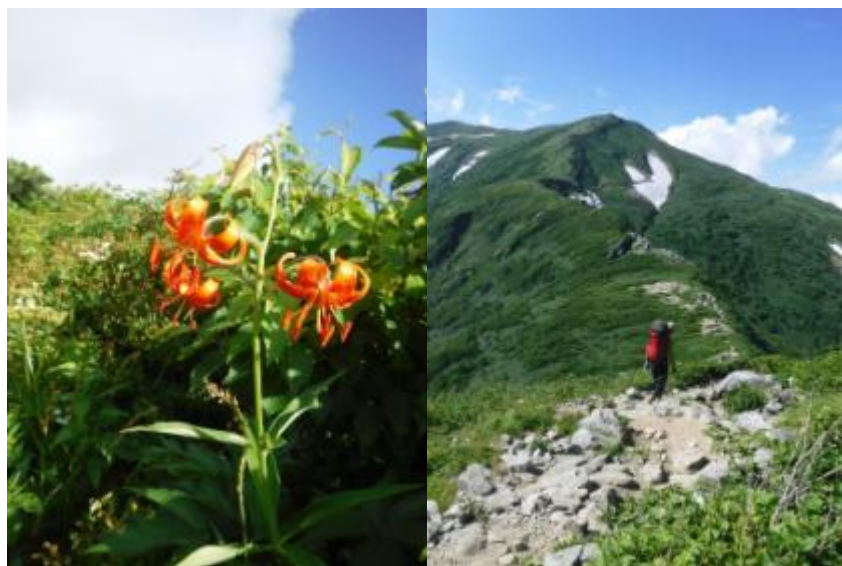


飯豊本山

2025 年 7 月 20 日～21 日

メンバー 関川佐紀子、海老名 誠

7 月海の日の連休、飯豊本山へ尾根登り。とにかく暑かった。入山は福島 of 弥平四郎から。飯豊本山のテント場へ到着したのは 16 時過ぎとなった。稜線もテント場も混雑した感じは無く、ゆったりと過ごせた。日が暮れると途端に涼しくなってくる。連日の暑さに参っていたのでとても気分が良かった。飯豊本山の山頂には 21 日朝、空荷で向かう。テントを撤収してからのんびり下山。下山後は赤湯温泉に寄った。(海老名 誠)



安達太良山 石筵川（沢登り）

2025 年 7 月 21～22 日 両日 晴れ時々曇り

メンバー:Ldr 野口(記)、木嶋、曾我

一昨年に岩魚の群れをみた石筵川に泊まりで行って魚祭りをしよう、ということで一泊で行ってみた。石筵川は、安達太良山の南面の、苔むした森や澄んだ水がきれいな沢だ。



しかし澄み切った流れの中に魚影は見えない。釣り師が入っているのかな？などと話をしていると、やはりいた！同意を得て追い越し、しばらく水を避けて進む。だが釣り師を追い越しても魚影は見えない。



透明度が素晴らしすぎて生物の気配がしない

小滝をいくつか越えると2段 20m 滝にたどり着いた。



下段をリードする曽我さん

一昨年にはなかった残置物が増えており、ちょっと興醒め。ザックを荷揚げし、空身で越える。木嶋さんは苦戦していたが身体フリクションでなんとかずり上がった。2段目も高さはあるので念のためロープを出した。



2 段目。大きな滝はこれで終わり、しばらくナメがつづく



癒しゾーン

時々小滝で竿を出すが、餌も取られず、そもそも魚影が見えない。15 時近くになったので、とにかく幕営地を目指すことにした。標高 1,230m あたりの右岸に広い幕営適地を見つけタープを張る。



焚火痕もある。昨晚も誰か泊まっていたのだろう。わたしは釣りに、木嶋さんは調理、曾我さんは薪を集めキュウリを叩く





岩魚は粘りに粘ったが1尾しか釣れなかった。今日は3連休の最終日。昨日までに釣られまくったのであろう(腕がない可能性もあるが)。かくして魚祭りは企画倒れとなった。米も上手に炊け、食当 木嶋さんの「なんかのまぜご飯」「野菜の炒めもの」「たたきキュウリのなんか和え」。さらに魚が釣れなかったときの保険「ウィンナー」で腹いっぱい。酒がすすむ。

夜も更け、熊対策という名の花火を楽しんだ後に就寝。焚火に花火を入れて炎の変化を楽しむ。シュラフカバーと防虫ネットで寝たのだが、やはり夜明け前は寒かった。防虫ネットは帽子を被っていても口や耳に張り付きそこを蚊に刺されるのだが、木嶋さんの防虫ネット(就寝用)は、肌に防虫ネットが張り付かない新兵器だ。これは快適そう、、だがお高い、、、。



[モンベル バグブルーフ スリーピングネット 8,250 円](#)

2日目もいい天気。下山路の尾根上は暑いはず。6時過ぎに幕営地を出発した。たしかこの先に大きな滝はなく、だらだらと河原を歩き、水流が少なくなってから笹藪トンネルを四つん這いで1時間進むという地獄が待っているはず。いやだなーなどと考えていたら、標高1,270m 左から支沢が合流しているところで思いついた。ここを進んで下降路にショートカットできるのでは？ だいぶ先に進んでいた曾我さんと呼びに行き、相談の上、戻ってその支沢を遡行してみることにした。本流に比べると水量はだいぶ少なく、よってヌメリも強い。すぐにヌメリ壁みたいな滝に行く手を阻まれたがここは左から巻けた。





すぐにまた別のヌメリ壁が立ち塞がる。ロープを出して右から巻く。



2mほど登ると残置ハーケンがあった。こんな支沢誰も通るまいと思っていたが先人もここを登っているらしい。右にトラバースした後に直登し立ち木でビレイする。2番目の木嶋さんが登りはじめる岩に引っ掛けていたスリングにつかまり、体半分ほど上がった瞬間にそのスリングが外れ、木嶋さんは落下した。運よく大きな怪我はなかったが危ないところだった。その後、木嶋さん、曾我さんも登ってきてビレイ点を越え歩いて沢に復帰。



水は細くなるが立って歩ける



支沢を詰めて藪を5分ほど漕ぐと登山道へでた



木陰が多い下降路

石筵川の最後のつらい笹トンネルをパスでき、長い下降路もショートカットできたので実によりルートだったと思う。車に戻ったのは昼頃だった。

装備: ラバー2人/フェルト1人(本流もヌメリがあるのでフェルトが良さそう)、ロープ 30m

風呂

[磐梯熱海温泉 共同浴場](#) 600 円

冷泉と温泉を交互に入ると皮膚病に効くという名湯。沢で虫に刺されて腫れていたところが鎮まった。このお風呂にもう一度行きたい！。



メシ

ドライブイン幸華

デカ盛りで有名らしい。味も良くこの辺に来たらここですね



谷川岳 白毛門沢(沢登り)

2025 年 7 月 30 日(水)

メンバー 海老名 誠、中村 政道

募集山行の下見で谷川岳 白毛門沢を遡行。白毛門沢の遡行は今回で 3 回目となるのだが、詳しい下調べが必要と考え今回の遡行を企画した。入渓すると 30 分弱でハナゲの滝、通常の遡行ではロープを出す場所ではないのだが募集山行に合わせスタカット登攀。待機場所や抜け口の確認を行う。所用時間は 30 分であった。白毛門沢に入りしばらく進むと連爆帯となる、滝ごとにルートファインディングを行いお助けスリングを出す場所なども考えた。タラタラのセンに到着すると先行パーティーが取りついていたのでしばし休憩。我々もタラタラのセンを登攀。残置ハーケン等は無かったがカム、灌木でしっかりとした中間支点は取れた。ロープスケールは 40m 一杯であった。続く 20m ナメ滝ではビレイ用のアンカーも作成、使わないハーケンを残置した。20m ナメ滝を超えると顕著な大岩が現れる。連爆帯は終わり溪相も源頭に近い雰囲気となる。一ヶ所ルート取りを間違え修正する。上部スラブ帯はもろに直射日光を浴びる箇所だが幾らか雲がかかっていたので助かった。上部スラブ帯でもアンカーを構築した。藪漕ぎもなくダイレクトに白毛門の山頂に出た。下山登山道の歩きはコースタイムと一緒に 2 時間 30 分。募集山行の為の下見の遡行ではあったが楽しい沢登りであった。最近では遡行図を書くことも殆どしていなかったのだが、溪の様子を詳しく見て記録を取りながら登るのも面白いものだ。記録の少ない沢、遡行図の入手できない溪での沢登りもこれからやっていきたいと考えている。今回の遡行は自分の勉強にもなる山行になった。(海老名)



● 会費について

☆会員 年会費 4,000 円（夫婦会員は2人で 6,000 円）
山岳保険料 4,490 円～ 月割可（詳細は池上か中村まで）

●万代市民会館集会室利用方法

最初に来館した人は、4階ロッカー室の稜友会の棚から、当日の日付が書いてある利用許可書1枚を持って1階受付に提出し、必要事項に記入の上、部屋のカギを受け取って会場に入ってください。

●必ず守ってください

山行計画書、下山報告共に
中村・須藤まで
メール・携帯電話等で連絡の事

次回原稿締め切り8月31日(日)野口さんまで

●原稿形式

基本 Word で行先（形態）、日付、メンバー、本文、作成者に写真を添えて作成をお願いします。

例

鳥海山湯ノ台口（山スキー）

2000年6月3日（土）～4日（日）

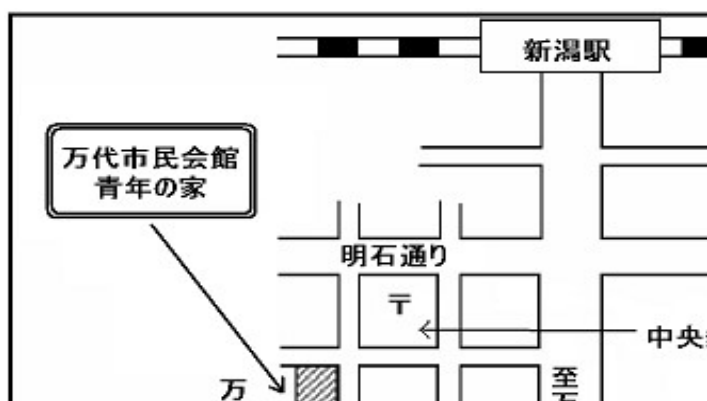
メンバー L、橋本、

本文

（橋本寅信）…作成者。本文末にカッコでフルネーム

新入会員募集中！

毎月第3水曜日 PM7:30～万代市民会館4階の「青年の家」にて集会を開催しています。気楽に顔を出してください。詳しくは、TEL 080-9444-3190 中村 まで



[編集後記]

8月21～23日、針ノ木岳から爺ヶ岳までテント縦走した。針ノ木岳は北は妙高、白馬から南は槍、穂高まで一望でき、まさに北アルプスのど真ん中にいることを実感した。2泊のテント縦走は久しぶりだったが、思ったより歩けたので安心した。(N)

.....
月報「稜友」August2025 No.365 2025年8月15日 発行
発行者 新潟稜友会 代表 中村 政道
〒945-1432 柏崎市善根 1573 Tel 025-727-3336
.....